

第2回作業班における議論の概要

【第2回会合における主な議論】

- 前回（第1回）会合で議論した検討の進め方を受け、生体電磁環境の研究ロードマップの在り方について、構成員や事務局からインプットを受け、その在り方について議論した。
- 第1回会合や第2回会合等における、同ロードマップの見直しに関するこれまでの主な意見は以下のとおり。

- これまでの研究ロードマップを踏まえつつ、状況の変化を踏まえ、研究内容の追加・前倒しを行うべきではないか。
- ICNIRP等の国際的な動向を踏まえ、まずは夏頃を目指してロードマップの改定を検討していくべきではないか。また、WHOにおいても今後取り組むべき研究課題が公表される見込みなので、随時更新できるように進めるのが良いのではないか。
- その際、電波の安全性を十分に確保することや、新たに利用が想定される無線システムについて先手を打って研究を進めること等の観点に留意するべきではないか。
- リスク評価のうち、工学的要素を持つものには指針値に関連するものもあるので、リスク管理の側面もあるのではないか（個別の研究成果について、他で使えるものは活用していくべきではないか）。
- モニタリングについては、電波防護指針は満足していることはわかっているものの、実際にデータを測定して根拠を持って説明することにより、リスクコミュニケーションの第一歩とする観点からも重要なのではないか。
- リスクコミュニケーションについては、様々な評価や管理をした上での総合的な応用問題の側面があるので、（実際の研究を実施する際には）切り口に留意すべきではないか。
- 企業の観点からも、生体電磁環境対策の推進は重要と認識。

☞ 今までの議論も踏まえ、作業班主任と事務局において、関係する構成員や（必要に応じて）外部有識者のご意見をいただきなら、次回会合までに「生体電磁環境の研究に関するロードマップ」の見直しの素案を提示し、次回会合において議論する。

☞ 併せて、次回会合では、前回会合において議論する方向となったWPTの制度の在り方についても、構成員や外部有識者のご意見を伺いながら、議論を行う。